

[成果情報名] スイートコーン品種‘ゴールドラッシュ’の早出し栽培における優位性

[要約] 早出しスイートコーン栽培の定着品種‘ゴールドラッシュ’は2004年の導入開始期から22年間にわたり高い早生性や良食味の特性を維持しており、2025年現在においても一重トンネル栽培前半期までの導入品種として優位性が高い。

[担当] 総合農業技術センター・データ農業野菜科・赤池一彦

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

県内の早出しスイートコーン栽培は、一重トンネル栽培を中心に‘ゴールドラッシュ’が定着しブランド化している。現地では近年、出荷期後半の気温上昇に伴い安定生産や品質低下が懸念されている。そこで、安定生産とブランド力を維持するため、これまでの試験結果や品種変遷などから‘ゴールドラッシュ’の優位性を再確認する。

[成果の内容・特徴]

【ゴールドラッシュの優位性】

1. ‘ゴールドラッシュ’は、当センターの品種試験の結果から、2004～2005年の導入時、2014～2015年の定着時、2024～2025年の現在においても、収穫期の早さや食味の良さを持続するとともに、雌穂重も2L規格を維持しており、長期間にわたる安定的な生産に寄与している（表1）。
2. ‘ゴールドラッシュ’は早生性が高い特性を生かし、一重トンネル栽培の前半期（3月上旬頃）までに播種することで、気温の上昇が著しい6月中旬以降を避けた6月上旬までに良品生産することができる（表1、図1、図2）。

【ゴールドラッシュ導入までの変遷】

3. 早出しスイートコーンの主要品種は、甘みが強い‘ハニーバンタム(1971年)’、粒皮が柔らかく雌穂が大きい‘ピーターコーン(1984年)’‘ピーター235(1991年)’‘シュガコムMAX(2000年)’、甘みに特化した(糖度18度)‘味来390(1998年)’を経て、早生性、良食味、収量性などを兼ね備えた‘ゴールドラッシュ’へと変遷し定着してきた（表2）。
4. 現在‘ゴールドラッシュ’(割合54%)を補完する役割と県内産地での差別化を目的とし、‘甘々娘’‘ミルフィーク’‘ドルチェドリーム’などの品種が導入されている（表2）。

[成果の活用上の留意点]

1. 早出しスイートコーンの出荷期間は5月中旬～6月末である（図1）。6月上旬収穫までのイエロー系品種は、早生の‘ゴールドラッシュ’を用いることが望ましい。
2. 6月中旬以降の収穫に対応した品種は、当面、高温による品質低下（粒皮のしなび、食味の低下）を軽減できるとされる中早生や中生品種を用いることが望ましい。今後この時期の導入に適した有望品種の選定が求められる。

[期待される効果]

1. ‘ゴールドラッシュ’の収穫期の早さは販売価格に反映するとともに、水稻や露地ナスなど後作作物の早期作付けにも寄与できる。
2. ‘ゴールドラッシュ’の特徴とともに6月上旬出荷までの一重トンネル栽培における優位性が再認識でき、品種導入時の参考になる。

[具体的データ]

早出し作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	品種 (タイプ)
無加温ハウス、二重トンネル		●●				■		ゴールドラッシュ (早生)
一重トンネル (前半)			●●			■		
一重トンネル (後半)~露地マルチ			●●				■	(中早生~中生)

図1 早出しスイートコーンの作型および‘ゴールドラッシュ’の導入例 播種● 収穫■

表1 ‘ゴールドラッシュ’の導入期, 定着期, 現在における主要数値

年次	供試 ^{z)} 品種数	播種日 (月/日)	収穫日 ^{y)} (月/日)	雌穂重 (g)	むき身重 (g)	先端不稔 (mm)	食味 (甘さ)
2004 (平成16)	13	3/8	6/10 (3位)	422	268	0.0	3位
2005 (平成17)	15	3/7	6/10 (1位)	457	305	12.0	2位
2014 (平成26)	6	3/12	6/10 (2位)	447	286	2.0	1位
2015 (平成27)	5	3/5	6/7 (1位)	509	323	3.0	2位
2024 (令和6)	6	3/4	6/7 (2位)	484	292	2.0	1位
2025 (令和7)	6	2/28	6/5 (1位)	471	292	4.0	3位

z) ‘ゴールドラッシュ’導入開始期の2004年から2025年まで、22年間の供試数は延べ206品種(系統)で、年平均9.4品種(系統)。 y) 収穫日の()内数値は供試品種中の順位を示す。

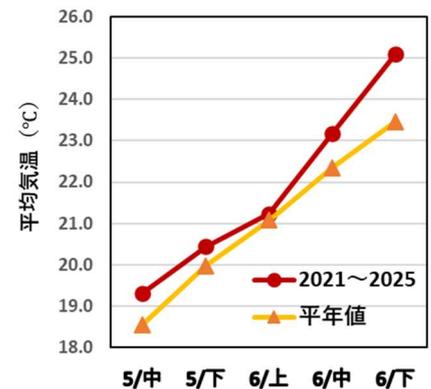


図2 早出しスイートコーン収穫期の平均気温推移 (甲府地方気象台)

表2 早出しスイートコーンの現地へ導入された主要品種の特徴と変遷^{z)}

導入品種の特徴	年次	イエロー	バイカラー
甘み強い (以降、スーパースイートコーン)	1971 (昭和46)	ハニーバンタム	
↓	1984 (昭和59)		ピーターコーン
	1989 (平成1)		カクテルE51
	1991 (平成3)		ピーター235
	1995 (平成7)		アルテミス82
	1996 (平成8)		シュガコム
甘み極強、粒皮柔らか	1998 (平成10)	味来390	
↓	2000 (平成12)		シュガコムMAX
	2002 (平成14)		甘々娘
甘み極強、粒皮極柔らか、雌穂大、収穫早い	2004 (平成16)	ゴールドラッシュ	
‘ゴールドラッシュ’の補完的役割、差別化	2005 (平成17)	きみひめ	ミルフィーユ
	2019 (令和1)		ドルチェドリーム

z) 表中で示された年次は、当該品種が導入された年次を示す。着色部は2025年現在の導入品種。‘きみひめ’は2024年に種子の販売終了。

[その他]

研究課題名：本県に適した野菜・花きの有望品種選定

予算区分：県単

研究期間：～2025年度

研究担当者：赤池一彦、古川安吾、志村貴大、五味愛美、塩崎欽哉、志村純子、窪田哲、長谷川茂人、五味敬子、中村知聖、小沢明子、千野正章、宮川芳樹、五味亜矢子、對木啓介